

所属	言語文化研究科 日本語・日本語教育専攻 修士課程	修了年度	平成 25 年度
氏名	蘇 紅娟	指導教員 (主査)	山西 正子

論文題目	日本語の「大丈夫」と中国語の「没事」の対照研究
------	-------------------------

本文概要

本論文は、現在、タイムリーな話題として取り上げられる日本語の「大丈夫」について、筆者自身による「中国語の「没事」と酷似する部分があるのではないか」との視点に基づき、両者の共通点・相違点を明らかにし、一定の関連付けを試みるものである。

序章では、辞書において、二つの言葉が相当程度まで共通の意味を持っていることに着目し、留学生である筆者が日本語の「大丈夫です。」(拒絶の言い回し、本論文では『大丈夫』の新用法)と命名する)イコール中国語の「没事」(拒絶の意味合い)と即断し、使用するに至った経緯を示す。日本語学の分野で、この新用法が指摘されているが、筆者自身の体験を踏まえて再検証しようとしたところに、研究動機がある。

「大丈夫」とは危険や心配がなく安全な様を表す言葉であるが、近年、多少注目すれば、意外に日本人の実生活の中で、とりわけサービス業において、「温めは大丈夫ですか？」あるいは「袋にお入れしますか？」「大丈夫です。」といったやり取りの中で、拒絶の言い回しとしての「大丈夫」が、筆者のように使用されている。そして、この新用法はサービス業から日常生活に至るまで広まりつつある。

この筆者の気づきを述べ、筆者が考えた三つの発想点の研究目的などを明らかにする。最後に、留学生の立場として、この『大丈夫』の新用法が頻繁に使用されている背後の原因も考察したいと考える。

この考察は、中国人の日本語学習者にとっても、ネイティブの日本人にとっても、意味のあることはないかと思い、ここに研究の意義を見出したい。

第一章では、二つの言葉をよりよく対照するために、辞典により二つ言葉の語源・由来、解釈などの紹介と用法分類を行う。

第二章では、新聞記事、テレビドラマやインターネットから収集したデータなどを通して、二つの言葉の使用状況を対照し、説明し、分析する。その上で、問題の所在も示される。

第三章では、『大丈夫』の新用法をめぐって、筆者がコンビニエンスストアで実験調査を実施する。また、筆者が作成した日本人用記入式アンケート調査も実施する。データを収集し、分析してみた上で、前述した研究目的が検証できる。一方では、『大丈夫』の新用法の実態の一面も、よりよく把握できると考える。

第四章では、第三章の調査から明らかに示しえたいくつかの実態に基づき、筆者の研究動機を踏まえ、また、いくつかの客観的なデータを援用しながら、留学生の立場から、この新用法が頻繁に出てくる原因を考察してみる。

終章では、内容を全体的にまとめる。そして、金澤裕之の、『留学生の日本語は、未来の日本語—日本語の変化のダイナミズム』(2008ひつじ書房)を援用しつつ、分析を試み、自分なりの考えも述べる。

「大丈夫」と「没事」という例を始めとして、恐らく二つの言語においてそのようなつながりを持っている言葉は少なくないと思う。本研究の視点や手法が、これからの相互の言語学習に、多少なりとも貢献できれば幸いである。